

みどりの 女神が行く!

ウッドデザイン賞 2022の表彰式



ミス日本みどりの女神

なりた あすみ
成田 愛純

12月、東京ビックサイトにてSDG Week EXPO 2022が開催され、同会場内で行われた日本ウッドデザイン協会が主催する「ウッドデザイン賞2022」の表彰式に出席致しました。

「ウッドデザイン賞」は、木で暮らしと社会を豊かにするモノ・コトを表彰し、国内外に発信するための顕彰制度。2015年に創設され、今回で8回目。実はみどりの女神が誕生した年と同じなんです!

会場には、先輩女神から聞いていた通り、本当に魅力的で素敵な受賞木製品が展示されていました。

私も展示されている受賞作品を見させていただきました。大きな建物や小さな文具まで、デザインの美しさに目を惹かれます! 自転車やペンやおもちゃに、木目模様の魅力や柔らかさが活かされています。「こんなところにも木を活用することができんだ!」と新たな発見ができた作品もあり、ワクワクしながら見学しました。受賞された皆様、本当におめでとうございました!

表彰式終了後、会場内にある「森と木で拓くSDGゾーン」森と木のある暮らしの提案」のブースを訪問いたしました。

各ブースでは日本の森林を守ることに繋がるさまざまな活動を知ることができました。

特に印象に残ったのは、神奈川県

の小学校の皆さんのブースです。学校で行われた森林体験の様子や、子ども達が思う20年後の未来のまちづくりの重要性が具体的に描かれており、それを子ども達が自ら説明をしている姿にとっても嬉しく思いました。

みどりの女神として活動してきた中で、大人の方が思う森づくりや街づくりは沢山見聞きしてきましたが、子ども達からの直接の声を聞くことは初めてだったので、未来を担っていく子ども達が森林を守り育むために行動していることを大変頼もしく思いました。



▲ ウッドデザイン賞 2022 表彰式にて

これまでの活動を振り返って

さて、気がつけば私の「みどりの女神が行く!」の連載は、これが最後になります。

活動が進んでいくうちに分かってきた、森林を取り巻く状況や、伐って使って植えて育てる林業のサイクルなどは初めて知ることばかりでした。楽しくもありましたが、期待に応えるために学びや視察を急がないといけない焦りもありました。そして1年の間に、チェーンソーを扱うようになったり、きのこマイスターの資格を取得したり、専門的な学びで新しい世界の見方を身に付けたような気持ちです。

この情報誌「林野」への寄稿は、大學生と同じ年代の私からみた林業の世界がどんなものなのかを、感じたまま正直に書かせていただきました。

地方で活動した際には「情報誌林野みたよ!」「すぐく想いが伝わった」と直接言っていたことがあり、とても嬉しく、私の原動力となりました。自分の書いた文章が多くの方に届いていることが分かり、とても嬉しく思いました。

日本の森林の素晴らしいところは、文化や生活に木を取り入れているところだと思います。それは言われてみないと気が付かないくらい普通のこと、女神になってから木を使うモノ、コトに目が向くようになりました。そんな林業の課題は、引き継いでくれる若者を増やすことや、木を使う場面を増やすことということも分かりました。こうした課題点を学ぶことができ、日本の森林文化を誇りに思うと同時に責任も感じるようになりました。

私はいつかログハウスに住み、木に囲まれた生活を実現したいと思っています。そのために、この一年で私が感じ、学んだことをこれらの女優人生の中にもしっかりと折り込んでまいります。そして、森林の大切さをいつもどこかで考え、森林とともに生きていく女優になりたいと思います。

また何かの形でお目にかかれるよう、頑張ります！これからよろしくお願いします。

1年を振り返って

Photo gallery

